

# 情報クリップ

農業情報ピックアップ

## ●2/22 雪印食品、4月末解散

雪印食品は取締役会を開き、経営再建を断念し、4月末をめどに会社を解散することを決めたと正式発表した。解散に伴う損失額は約240億円。3月末まで営業を順次縮小、廃止する。

同社は偽装牛肉事件の発覚以降、業績が急速に悪化。食肉部門からの全面撤退やスーパーなどの取引停止などで、売上高は事件前の2割前後に激減し、経営規模を大幅に縮小する方向で再建を目指していた。(共同)

## トピックス

### 2/8 沖縄で県単一農協発足へ

県単一の農業協同組合発足を目指す沖縄県内の27農協のうち、唯一合併承認ができていなかった那覇市の真和志農協は、臨時総会を開き、県単一農協への参加を正式に承認した。沖縄で来年4月、奈良県に続いて全国2番目の県単一農協が発足することが事実上決定した。(共同)

### 2/15 京都の2農協が合併

京都府中部の5町を地盤とする京都市南丹農業協同組合と、福知山市農業協同組合は、4月1日付で対等合併すると発表した。各農協がそれぞれ開く臨時総会で正式決定する。合併後の貯金高は約1360億円で、府内5番目の農協となる。名称は「京都農業協同組合」。今後、府内単一農協に向け残る8農協との合併も進めるといふ。(共同)

### 2/18 菊が咲いている期間を保証

切り花の菊が咲いている期間を保証する制度が来年度から宮崎県で始まる。日本花普及センターによると、産地が開花期間を保証する制度は全国でも初めて。生産地と保証期間を記したシールなどを

添付してJAが出荷。枯れたら交換する。当面は通常の段ボール出荷でも約1週間咲く菊に絞る。(毎日)

### 2/20 昨年の世界穀物生産18億t

FAOは発表した報告で、昨年の世界穀物生産量が18億8000万tとなったとの推計を明らかにした。これは昨年12月の予想をやや上回り、前年比でも1.2%の増加。ただ、世界の穀物消費見通しから見ると、生産は不足しており、穀物在庫は「大幅減少するだろう」と警告している。(時事)

### 2/27 英で5カ月ぶり口蹄疫が

英国の環境・食糧・農村省は、中部ヨーク州の農場で家畜伝染病、口蹄疫に感染した疑いのある羊2頭が見つかったと発表した。英国は昨年2月から口蹄疫の空前の大流行に見舞われ、畜産業、観光産業が大打撃を受けた。感染が確認されれば昨年9月末以来となる。英国は今年1月に終息宣言を出したばかり。(共同)

## 雪印食品・偽装事件

### 2/8 雪印食品、豚肉産地偽装も

雪印食品による牛肉偽装事件をめぐり、同社関東ミートセンターで、昨年6月以降、輸入豚肉を

「国産」と表示したり、青森県産の豚肉を「神奈川県産」と表示するなどの偽装工作が行われていたことがわかった。(読売)

### 2/10 雪印食品 4年前の肉まで「買い取り」申請

雪印食品関西ミートセンターが国の狂牛病対策の買い取り制度に申請した国産牛肉の中に、加工から1年以上も経過した牛肉約4tが含まれていたことが兵庫県警などの調べでわかった。業界内では「三東三文の品」とされ、中には品質保持期限をはるかに過ぎた4年前の「超不良在庫」まで紛れ込ませていた。(読売)

### 2/13 外国産牛肉混ぜ「国産」狂牛病騒動後は「外国産」

佐賀県内のスーパーが、国産牛肉を外国産の牛肉に混せて昨年10月ごろまでは「国産牛」と偽って販売、狂牛病騒動が起きた後は、逆に「外国産」として販売していたことが分かった。(共同)

### 2/16 韓国産トマトを熊本産と偽装

全国有数のミニトマトの産地、熊本県八代市の複数の青果物業者が昨年、韓国産ミニトマトを「熊本産」や「八代産」と偽装して関東などの市場に出荷していたことが分かった。県はJAS法違反の疑いがあるとみて調査している。JA八代のトマト生産関係者は、対応を協議し、JA系統のトマトには他産地産が混入していないことを示す証明書を発行することを決めた。(朝日)

### 2/22 米沢牛 福島県いわき市

佐賀県内のスーパーが、国産牛福島県いわき市の食肉小売業者が県外産などの牛肉を山形県産のブランド牛「米沢牛」と偽って表示・販売していたことがわかり、県はJAS法と景品表示法違反でこの業者に文書で改善を指示した。県民生活課などによると、業者は昨年9月まで、実際には米沢牛を仕入れていないのに、店頭やチラシなどで「米沢牛」「米沢産」と表示し、販売していた。(毎日)

### 2/27 安い白豚「黒豚」に偽装

食肉卸大手のスターゼンは、値段の安い白豚を黒豚としてパック詰め販売し、食品表示を定めたJAS法の表示義務に違反していたと発表した。農水省の調査で疑いが浮上、社内調査で従業員が証言した。同社の鶴橋誠一社長が緊急会見して明らかにした。鶴橋社長らによると、スターゼンの佐賀パックスセンターで、2000年6月から01年12月ごろまでの約1年7カ月間、SPF豚の白豚を「黒豚」と表示して販売した。(共同)

### 3/2 農協系と牛乳部門一本化

雪印食品の偽装牛肉事件などを受けて再建策の見直しを迫られている親会社の雪印乳業が、採算の悪い牛乳部門を切り離し、全農など農協系の事業者と持ち株会社方式で一本化することなどを検討していることが分かった。2000年の集団食中毒事件以降、採算が悪化していた牛乳部門切り離しにめどをつけ、残る加工食品などの資本提携に向けた交渉に弾みをつける狙いがある。(共同)

3/5 全農系会社が偽装鶏肉、  
国産に輸入7t混入

全農系の鶏肉加工会社「鹿児島くみあいチキンフーズ」が、コープネット事業連合に納入した鹿児島県産の産直若鶏の中に、タイや中国産鶏肉を少なくとも7t混ぜていたことが明らかになった。偽装は狂牛病騒ぎで、鶏肉の需要が急増し、欠品対策として全農の子会社「全農チキンフーズ」の指示で行われたといい、農水省では会社ぐるみの組織的な偽装工作とみて、JAS法違反容疑で立ち入り検査を実施し、全容解明に乗り出す。(読売)

狂牛病

2/17 狂牛病対策 業界団体に  
多額差益

狂牛病発生に伴って国が実施した牛肉買い上げ事業で、農水省が業界団体の買い上げ価格を調べず、買い取り助成金を業界団体の買い上げ価格を大幅に上回る額に設定していたことが分かった。団体によっては奨励金との差額が1kg当たり400円以上ののぼり、27億円の差益を得るケースもある。約2000億円の国費を投じる買い上げ事業の「どんぶり勘定」。(毎日)

2/21 牛肉産地情報、店頭で検査  
消費者に安心して牛肉を食べ

もらおうと、スーパーの店頭で牛肉の産地情報を検索できるシステムの試験運用が神奈川県大和市のジャスコ大和鶴間店で始まった。対象は対面販売の鹿児島県産牛肉。売り場に設置された端末に10ヶタの牛の識別番号を入力すると、産地情報と狂牛病検査証明が画面に

表示される。(時事)

2/27 肉骨粉の危険性、12年前  
に英から書簡

狂牛病の感染源とされる肉骨粉の危険性を、12年前に英国が農水省に伝えた書簡が、「狂牛病問題に関する調査検討委員会」に提出された。日本が牛への肉骨粉使用を行政指導で禁止したのはそれから6年も後で、過去の行政対応の遅れが改めて浮き彫りになった。書簡は英国獣医局長から1990年2月に送付され、「牛は肉骨粉を含む牛用の飼料を通じて、スクレイピーの原因物質を摂取した可能性が高い」と指摘。(読売)

コメ関係

2/8 コメの精米日付改ざん  
て販売

3年前に品種を偽った表示をしてコメを販売したとして、石川県から改善するよう命令を受けていた金沢市のコメの小売業者が、今度は精米年月日を改ざんして販売していたことが農林水産省の食糧事務所の調査で明らかになった。改ざんが発覚したのは、金沢市東力町のコメの小売業者で、去年6月に金沢市のデパートで販売したコメの精米年月日をデパートへの納入日に合わせて新しい日付に改ざんしていた。(NHK)

2/18 計画米比率、5割以下に

農水省や全中など農業団体が構成する「米の需給・価格情報に関する委員会」は、2001年産米に占める自主流通米と政府米の出荷量が初めて50%を下回り、49.3%になるとの見通しをまとめた。

食糧庁などによると、2001年産米の生産量は906万t。うち計画米の出荷量は、政府米の買い入れ量が前年の40万tから11万tに減少することなどから、447万tにとどまる見通し。(共同)

2/28 36食糧事務所を9カ所に  
統合

食糧庁は、組織効率化の一環として3月31日付で、全国に36ある食糧事務所を9事務所に統合すると発表した。農産物検査業務の民営化に伴う措置で、食糧事務所の下部組織である支所も同時に、201から124に減らす。食糧事務所に勤める職員は2000年度末時点で9540人。2001年度から5年間で1848人を削減する計画。(時事)

2/28 新潟産コシが収穫量3年  
連続1位

農水省が発表した2001年産水稲の産地品種別収穫量によると、新潟産「コシヒカリ」が前年産より1600t多い53万3200tで、同年産水稲全体(904万8000t)の5.9%を占め、3年連続でトップになった。2位は秋田産「あきたこまち」で、前年産より2万7300t少ない42万3100t(4.7%)。3位は北海道産「さらさら397」で同1万7000t減の38万9200t(4.3%)だった。(共同)

テクノロジー

2/12 クロロイン チャンピオン  
豚成体の体細胞から成功

品評会で優秀な成績を収めたチャンピオン豚の体細胞クロロインを

つくることに、米ウイスイコンシン州のバイオテクノロジー企業「インフイジエン」が成功した。同社はオス豚の耳の細胞の核を取り出し、核を取り除いた未受精卵に移植する方法で、クロロイン胚を作った。これをメス豚の胎内に入れ、赤ちゃん豚を誕生させた。ロイター通信によると、2頭のオス豚の耳細胞をもとにしたクロロイン豚が昨年12月から今年1月にかけて計4回誕生した。(毎日)

2/14 牛乳房炎 早期診断装置  
を開発

牛の乳房に黄色ブドウ球菌などが感染して牛乳の質や量の低下を招く牛乳房炎を、早期に簡易に高精度で診断できる装置を開発したと、農業技術研究機構の動物衛生研究所が発表した。乳房炎の牛の乳には活性化した白血球が多く含まれている。細菌と同程度の大きさの微粒子を入れた試薬と混ぜると、白血球は微粒子を乳房組織に潜り込んだ細菌と勘違いして攻撃する。乳房炎に感染していなければ、活性化した白血球はほとんどないため、光は出ない。これを指標として乳房炎に感染しているかどうかを判定する。(毎日)

3/4 組み換え食品の基準討議  
コーデックス委が開幕

遺伝子組み換え食品の国際的な安全基準づくりを検討する政府間組織コーデックス委員会(食品規格委員会「バイオテクノロジー応用食品特別部会」)の第3回会合が、横浜国際会議場で始まった。30以上の政府、国際機関の代表に加え、非政府組織(NGO)も参加。8日までの日程で、組み換え食品の

安全性評価の一般原則や指針について議論する。(共同)

4月のイベント

(国内)

●30回外食産業ブランドフェア  
4月7〜8日

会場 科学技術館  
内容 外食産業向け食材を一堂に集め、需要低迷に悩む外食業界に活力を注入するとともに、新メニュー開発のための情報提供場を提供する  
主催 首都圏業務用食品卸協同組合  
問い合わせ 03-3835-1541

●第10回国際園芸技術展  
4月17〜20日

会場 幕張メッセ  
内容 園芸と園芸技術などを紹介する総合展  
主催 日本能率協会 日本施設園芸協会 日本生物環境調節学会  
問い合わせ 03-334-0998  
公式サイト <http://www.jma.or.jp/HB/>

(海外)

●FHA2002 (Food&HotelAsia2002)  
4月6日〜12日

会場 SingaporeExpo (シンガポール)  
内容 食品・飲料、ホテル・レストラン・サービス業に関する総合見本市  
主催 ジャパン・エキシビション・サービス  
問い合わせ 03-354-1890